

## Comparison of the Effect of Bromfenac versus Betamethasone Ophthalmic Solutions in Patients with Diabetic Macular Edema

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: en<br>出版者:<br>公開日: 2023-05-29<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 飛松, 唯<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.20780/00033460">https://doi.org/10.20780/00033460</a>                |

し様式 (6)

## 学 位 審 査

|  |            |       |      |
|--|------------|-------|------|
| 学 位 番 号  | 乙 第 3198 号 | 氏 名   | 飛松 唯 |
| 審 査 委 員 会  | 主 査 教 授    | 長嶋 洋治 |      |
| 論文審査の要旨 (400 字以内)  |            |       |      |
| <p>申請者より論文の趣旨について説明を受けた。本研究では、糖尿病黄斑浮腫 (DME) に対するブロムフェナク点眼液 (BF) の有用性を比較検討し、DME での中心窩網膜厚を改善させる可能性が示唆された。</p> <p>これを基に質疑が行われた。</p> <p>①「BF 投与の継続が必要とされる期間はどのくらいか？」という質問に対しては 「血糖のコントロールや網膜症の可逆性によって、変わってくると思われる。今後の課題である。」との回答を得た。</p> <p>②「論文では患者 19 名の 19 眼を対象としているが、反対側眼は無治療対象としたのか？」という質問に対しては「血糖コントロール良好群を選び、より重症の眼を対象とした。重症度が異なることから、対側眼は対象としなかった。」との回答を得た。その他の質問に対しても適切な回答があった。</p> <p>本研究は DME に対する従来の眼球内薬剤注射よりも侵襲性が低く、継続しやすい BF 投与の有用性を示しており、価値あるものと考えます。</p> |            |       |      |
| 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]  |            |       |      |